

施工フォローアップ研修

(株)グランテック 特殊工事課
澤田 敏浩

10月16日にフォローアップ研修を開催致しました。
今回の研修内容は品質管理と機械のメンテナンスについて伝えさせて頂きました。
品質管理につきまして『層厚の遵守の為の施工方法』になります。4分割データの活用、層厚30cmを目指しての施工、高止まりの際には高止まり箇所の再掘削、押圧力の確認、砕石投入量です。こちらを守って日々の施工をして頂ければお客様に品質の良い商品を提供できるかと思います。
機械のメンテナンスにつきまして昇降チェーンの『給油と調整方法』をお伝えさせて頂きました。日々のメンテナンスを通じて機械トラブルの解消に繋がれば良いかと思います。
最後にご参加いただきました協会の皆様に感謝申し上げます。

設計フォローアップ研修会を終えて

(株)グランテック 南関東営業所
中嶋 寛子

7月17日フォローアップ研修では多くの代理店の皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。スクリー・プレス工法の設計について初心に帰り基礎的なことを再確認しながらお話しさせていただきました。φ350とφ430について押圧力や砕石量の違いについて共有させていただきましたが、メリット・デメリットを考慮しながら判断していただければ幸いです。
件数を重ねても同じ地盤・同一建物はなないためデータのみにとられすぎず、案件ごとに経験値として生かせるよう、私自身も日々邁進していく所存です。

役員会開催

9月6日(金)東京ふれあい貸会議室において第14回役員会を開催いたしました。今年度より役員会のメンバーも変わり初めての役員会となりました。協会活動の報告と今後の協会運営について協議致しました。特に白熱した議論としてはスクリー・プレス工法の非住宅分野への進出についてでした。設計や施工、工事実績に関する情報が活発に飛び交っていました。新役員体制の下、さらなる飛躍が期待されます！



会員一欄

正会員	株式会社 アイ機	株式会社イートン	株式会社eco・カンパニー	株式会社 柿崎工務所
株式会社 ジョック技研	地建興業 株式会社	千代田機電 株式会社	株式会社 中川商店	有限会社 平居建設
ビルダーズサポート株式会社	株式会社 福田テクノ	富士貴建築 株式会社	株式会社 ライフベース	株式会社 レクティオ
準会員	株式会社 第一工業	株式会社 日建コンサルティング	株式会社 西尾技建	
協力会員	株式会社 シロタ	株式会社 ヒヨシ	株式会社 セーフテック	
賛助会員	一般社団法人 ハウスワランティ	株式会社 GIR	一般社団法人 不動産検査保証機構 レイウス	
特別会員	株式会社 コンステックホールディングス	株式会社グランテック		

スクリー・プレス工法 協会だより

Vo.014
2024.12.発行

発行:スクリー・プレス工法協会事務局
TEL:(0766)30-2372
FAX:(0766)30-2566
Email:spassoc.info@cons-hd.co.jp

会員企業紹介

コンステック HD グループ



グランテックは、1983年(昭和58年)の創業以来“事業活動を通じ、よりよい社会基盤構築に尽力し、幸せな環境づくりに貢献する”という企業理念のもと、他にはない独創的で確かな技術力と技術開発で、地中土木の分野において実績を積んで参りました。
中長期経営計画の初年度にあたり、人材育成1000日計画(通称 G-Plan1000)と銘打って社員の能力開発に取り組んでいます。当社は人材による差別化を目指し、常に圧倒的に技術的差別化を図り、お客様の課題解決を図っていきたく考えています。
このように今後もより一層社員ひとり一人が新しい技術を習得し、他にはない独創的な技術を開発し、新たな価値を創造し、圧倒的技術力で現在の社会基盤の課題を解決していく所存です。

土木工事のプロフェッショナル

自治体をはじめ発注者の皆さまから「地中工事ならグランテック」と高い評価を頂いています。上下水道など公共工事はもとより、地盤改良工事、太陽光発電基礎工事、さらには地下水の熱エネルギー利用といった新たな地中土木工事分野にも取り組んでいます。



特殊機械・機器の開発製造

独自工法の開発にともない、特殊な土木工事に用いる機器の開発製造を行っています。



数々の独自工法を開発

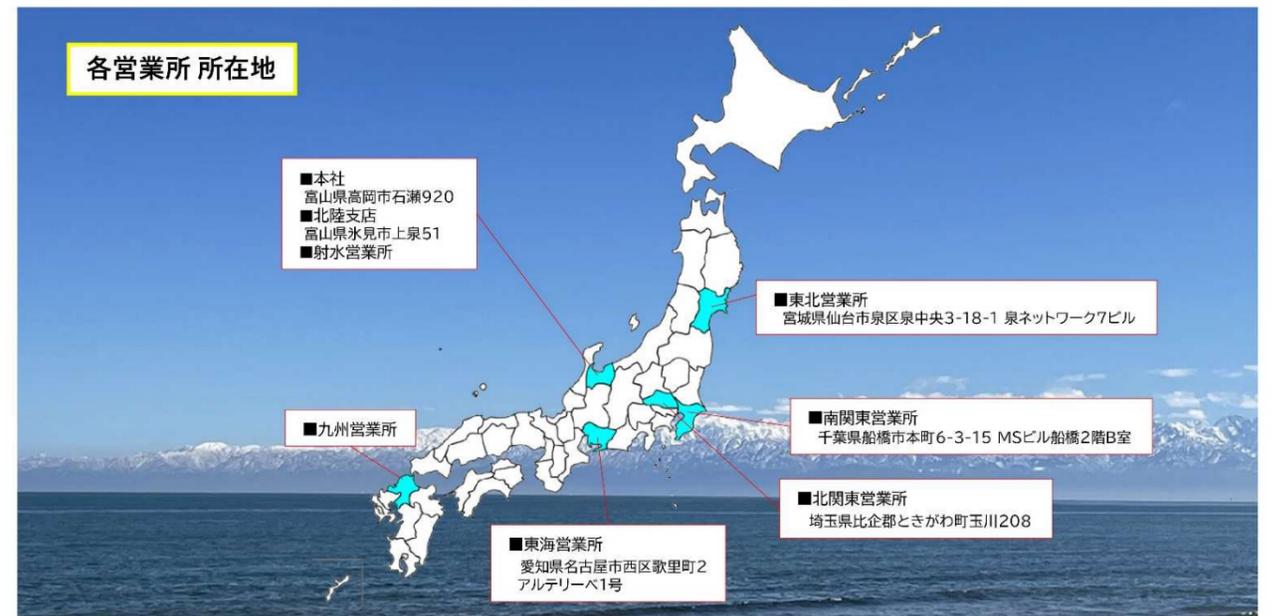
工事品質の向上や、工期の短縮、コストダウンにも優れた数々の独自工法を開発してきました。中でも、地震や液状化に強く、低コスト、そして環境にも優しいスクリー・プレス工法は、地盤改良の新技术として高い信頼を得ています。

工事に必要な機器・資材を販売・レンタル

建設資材の販売、新品・中古の土木建設機械・測量関連機器の販売・レンタルを行っています。



各営業所所在地



対談

スクリユー・プレス工法協会発足から6年が経ち、この度3期務めた永井前会長から齋藤会長に引き継がれた。そのような中で、新旧会長が現状のスクリユー・プレス工法の位置づけと取組み、将来の展望と見通しについて語る。



新会長 齋藤 裕



前会長 永井 理之

◆新会長就任の抱負

【永井】では、新会長に就任されてのお気持ち、抱負をお聞かせください。
【齋藤】平成30年4月に、永井会長がこのスクリユー・プレス工法協会を立ち上げて、その後請け負ったわけですが、コロナ禍ということもあり、市場も環境に良いものをするということに大分シフトしてきたと感じています。ですが、その中でまだ住宅事情は縮小傾向にあると。その中でスクリユー・プレス工法協会に参加されている会員企業が、今後どのような形で業界を引っ張っていくか、立ち位置を確保していくかがこれからの課題であると思います。永井会長は、スクリユー・プレス工法協会の新たな立ち位置を模索確保し、受注していく、というような方針があったかと思いますが、私もそれに近いと思います。他の類似工法、砕石パイルと言われる工法は、一般的に住宅しかできないというような見方があるのですが、スクリユー・プレス工法は、強力な押圧力を持ち、擁壁、土間下、浸透マスなどの改良をしたこともあります。このスクリユー・プレス工法の市場というのはまだまだ可能性があると感じています。今後、会員企業と横の繋がりを持った様々な意見を聞き、情報共有し、さらに強みを引き出したいと思います。また、昨今言われているDX化を取り入れながら、スクリユー・プレス工法が他にはない工法で環境にさらに特化した良い工法だということでも市場展開していけたらと思っています。
◆業界の現状と自社の置かれている状況
【永井】現状の地盤改良業界及び自社の置かれている状況はどのように認識されているとお考えですか。
【齋藤】住宅市場というのは、まだ必要な一軸軸になるころではありますが、その軸となる住宅市場が縮小傾向であります。件数も減ってきていて、住宅の値段が全て値上がりしている。

加えて、家の面積自体もさらに小さくなってきている。そうすると、やはり改良規模も小さくなり、金額も小さくなる。他工法との金額勝負となると、なかなか厳しい受注になることもあります。そして、人材の問題。人材については改良業界、建設業というのは、なかなか今の若い人には受け入れられないですね。3Kと呼ばれる業界だと思います。高齢化もしてきているので、高齢者が働きやすい環境作りということも考えなければいけない。今後、海外の方も雇用していくことも検討していかねければ人材という問題は解決していかないのかなと思っています。住宅市場の縮小、人の問題、この二つをいかに解決していくかが今、非常に課題になっていきます。

◆今後の業界と自社の方向性
【永井】このような状況の中で、業界の方向性、こうありたい、こうあるべきだというのは何かお考えですか。

【齋藤】先程も述べましたが、我々の目指しているところは、お施主様にとって健康な資産作りというところが一番だと思っております。そのため、お客様の資産価値を下げる埋設物になるようなものは使わない、脱セメントです。そういったお客様とより良い取引をしながら、もっとスクリユー・プレス工法を認知していく。展示会などに参加し積極的に広報活動していきながら、スクリユー・プレス工法の立ち位置を確立していきたい、これが一番の目標になるかと思っています。

【永井】先ほどのお話の中で二つポイントがあるかなと思ったのですが、一つは、住宅市場が縮小して行く中でどうしても価格競争になっているということ。もう一つは、人材、要するに地盤改良業界に人が入ってこない、もしくは人が育ちにくい、こんなような現状があると、そういう認識でしょうか。
【齋藤】はい。

◆現在のスクリユー・プレス工法の業界内での位置づけについて
【永井】これは私が考えるところですが、住宅市場が価格競争になっている原因は何かというと、市場が縮小していることもそうなのですが、地盤改良業界の立ち位置が、非常に低いことがあると考えています。

もっと言えば、今の住宅の基礎と同じように、住宅産業の中での立ち位置が低いということに非常に危機感を感じています。それを打破するためには、技術力をつけていくことかと。ただ、現在の住宅の地盤改良で技術的に高度にサービス化するのには非常に難しいのですが、スクリユー・プレス工法は、住宅以外の建築物、構造物にも対応できる可能性が大きいという強みがあります。そちらにシフトしていくのは一つの方向性かなと思います。その点に関してはどうお考えですか。

【齋藤】そうですね、当社も昨年そういった住宅以外の仕事を多く受注できており、そこに販路を広げることで、かなり仕事も入っていました。ですので、その市場に活路を見出すということは非常に大事だと思いますし、今後そちらの市場に展開できたらと考えております。

【永井】その中で工法協会として、住宅以外の市場にシフトしていくことについて、支援もしくは後押しをするという方策はどのように取りたいなどというのはありますね。

【齋藤】そうですね。色々な情報が入ってくると思いますが、やはり、グラントテックさんが工法協会の窓口もなっているので、技術的な部分に関しては、色々検討していただいている情報発信していただけたらと思います。

【永井】私は前会長の立場であり、もう一つ工法本部の立場として、今言った会員企業への住宅へのシフトをどれだけ支援できるかというの、まだまだ模索している段階です。

是非、齋藤会長にはこういうことをやってはどうかと、こういう方向で行けばどうかなど、アドバイスをいただきたいと思っています。では、もう一つ課題として挙げた人材難ですが、これは建設業界全体を含めて、ここ数年でかなり出てきたと思うのですが、海外の人材についても、少しお聞かせいただけませんか。
【齋藤】そうですね。当社の方でも建設業の中で数か月実習生を受け入れていますが、それだけで解決するというのもやはりなかなか難しいなと思っています。今後、そういった人々を、国としてどんどん認めてもらうことによつて、海外の人を使いやすい、日本人たちと同じ環境、同じ立ち位置で仕事ができるような政策を進めていただければ、本当に広い意味で日本の各企業が一緒に生き残ることができ、解決していくのではと感じています。

【永井】その中で、やはり地盤改良業界の立ち位置をもう少し上げていくこと。例えば海外の人材にも選ばれる業界にしておくことは非常に重要なことだと思います。そこはお互いに高め合いながら頑張っていきましょう。

【齋藤】そうですね。我々建設業、地盤改良業界は、目に見えない部分の仕事だと思っていますので、どれだけ魅力的な業界にしていけるかというのは、本当に永井会長がおっしゃっていた話だなと思っています。

【永井】我々もこういった役割にある以上は、業界全体に関しても意識して活動していきたいなと思います。では、現在のスクリユー・プレス工法の業界内での位置づけについて、認識をお伺いしたいと思います。

【齋藤】そうですね。スクリユー・プレス工法の位置づけとしまして、今はまだまだ広報活動が足りていないのかなという思いです。類似工法は代理店が非常に増えている。その中で施工数が伸び悩んでいるところが少し課題であると思っています。スクリユー・プレス工法は

他工法とは一線を画していますので、一緒に並べることは難しいと思いますが、特化した部分で一番になれるような場所にはいると思っています。
【永井】ということは、住宅市場だけではなく、非住宅市場に行ける可能性のある工法だということ認識でしょうか。
【齋藤】そうですね。はい。
◆会員企業に求めること
【永井】では次に、会員企業に求めること、会員企業のあり方とか、これは各企業の経営方針もありますけども、ただ、せっかく関わるならこうあってほしいなというのはありますか。
【齋藤】そうですね。各企業で、やり方や特色があるかと思いますが、各企業同士情報なりを、お互いに周知していきけるような形が、これから一番必要なことかなとも思っています。

【永井】確かにスクリユー・プレス工法以外に関しては、あまり情報が上がってこないところもありますね。例えば、工法協会の中で、もう少し情報交換ができる仕組みなどがあってもいいかもしれないですね。
【齋藤】そうですね、今、定期的に工法誌で、協会の紹介をしています。もう少し違う角度から情報の発信、交換ができるような取り組みも必要なのかなと思います。

【永井】また、これは私が会長をしていた時に会員企業から求められたことですが、総合的な技術力を上げていくことでした。業界での立ち位置を上げていくということと、スクリユー・プレス工法協会の技術力は高いぞと認めてもらえる、またそうありたい、というのはあります。これは本部としてもやりませんが、工法協会としてもやっていただきたいなと思います。

【齋藤】毎年なり定期的に設計や施工研修を開催していく。そういうのは、こんなことでできなかったということがあると思います。そういった手を抜かないような研修を随時、定期的に行うことによつて、技術者、設計者、施工者の底上げになって技術力も上がってくるのだらうかと思っています。
【永井】私が会長であった最後のところで、技術者倫理というのを引き出させてもらいました。それは、技術力を向上させる中で、技術力だけではない考え方の部分でこうあるべきだということを技術者倫理として打ち出しました。今後、機会がある毎に会長として言及していただき、また立ち戻るといったことを皆さんに発信していただければありがたいなと思います。

【齋藤】そうですね、仕事を始める前の朝礼や総会なりでそういったことを読み上げて、みんなに改めて周知することも大事なかなと思います。それによつて考え方についての植え付けられてくるかと思っています。
【永井】技術者倫理を出した一つの大きな目的として、業界全体の地位を上げたいということもありましたが、もう一つは、厳しい言い回しですけど、地盤改良は建築物と違い、できたものが目に見えないので、不正が起りやすい業界とも言えると思います。ですので、このような技術者倫理は非常に重要だと考えます。

【齋藤】そうですね。実際、スクリユー・プレス工法も見える化を取り入れてきました。データとしてしっかり記録に残りますので、それをまたデータ取得し見ることが出来ます。そういったものが改ざんできるとも思っていないのですが、スクリユー・プレス工法は、そういった工法と思われたいかないですね。

【次号に続く】